

普及活動情勢報告（平成20年5月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

耕畜連携の推進 ～家畜ふん堆肥のサンプル展示～



サンプル展示（安芸集出荷場）

平成20年5月12日（月）～16日（金）の5日間、管内畜産農家8戸が生産した家畜ふん堆肥を9箇所の集出荷場に展示した（延べ40サンプル）。

堆肥の利用については、地域内資源の有効な利用と土作りの面から推進する必要性があり、耕種農家に現物を見てもらい利用を促進することが目的。

耕種農家の要望として袋詰、ほ場内の散布方法等の要望が出された。

今後は、耕種農家の要望も踏まえ、家畜ふん堆肥の安定的な流通方法の構築について関係機関とともに検討を進めていく。

こうち型集落営農（北川村久府付集落）の取り組み状況 ～アンケート調査の実施へ～



久府付地区集落営農推進協議会の検討状況

5月14日に、久府付地区集落営農推進協議会を開催した。

会議では、集落の現況及び将来像を把握するための方法が議論され、アンケート調査を実施することとなった。

調査では対象者を、久府付集落内外の集落営農に関係する20歳以上の農地所有者の家族全員とし、農業のイメージ、集落営農組織の必要性等を調査することとした。

今後の予定は、役員9名が分担し、調査用紙の配布（5／15）と回収（5／23）を行い、5月29日に集計と分析を実施する。

なお、振興センターでは、アンケートの集計・分析や調査結果のまとめを支援し集落のビジョンづくりを協議会員が主体的に取り組む方法を積極的に提案していく。

出荷場の衛生管理チェック



5月19日に農協、園芸連安芸駐在所とともに場の安全管理や衛生管理をチェックした。

この取り組みは、食品安全の取り組みをさらに強化し、消費者等の信頼を確保することを目的とし、3ヶ月ごとに各場を巡回し管理状況の確認または改善点について場の衛生管理責任者と協議を行うもの。

昨年からの取り組みであるが、コンテナの汚れ防止等改善効果も表れている。今後も関係機関等と継続した活動を行い、生産現場から出荷まで安全安心な商品が提供できるよう取り組んでいく。

安芸集出荷場ナス部会・安芸ブロックナス部会の合同開催



「2種以上の土着天敵を入れたら、どうなった?」「夏越しのポイントは?」など、それぞれの体験談を皆で出し合った。

平成20年5月19日、安芸集出荷場ナス部会と安芸ブロックナス部会が合同開催された。まずは皆で土着天敵温存ハウスに向かい、先駆者農家の体験談を元に、土着天敵の使い方について現地研修を行った。その後、農業振興センター経営担当による「ナス栽培の現状と課題」、栽培担当による「18tどりを目指した土佐鷹ナスの栽培方法の改善」の2テーマで講習を行った。

参加した22名の農家からは、「土着天敵の利用は、まずは皆で協力し合っ

て情報交換する事が大切だ。」「経営も作物も、きちんと数字で把握していかなければ。」などの前向きな感想の他、「系統率向上や費用対効果、色々な課題を経営面からもっと突っ込んで調査・報告して欲しい。」という要望も出された。

今回講習した内容については、今後更に内容を深めて行き、7月開催の園芸研究会試験成績発表会でも報告する予定である。

天敵昆虫等を利用した新たな病虫害防除戦略！！



こんな天敵昆虫がいます。

13日と15・16日、室戸市農林課とJA芸東営農センターと連携して土着天敵昆虫の特性や温存ハウスの利用等について勉強会を実施した。

対象は市内吉良川及び羽根地区のナス・ピーマン・シシトウ生産農業者約25名で、21園芸年度に県環境保全型農業推進事業を活用し天敵昆虫や微生物資材の利用を計画している。

管内で難防除害虫のコナジラミ類の防除が土着天敵の自然発生によって防除ができた事例が確認されているため関心が高かった。生産者からは、“どのような天敵がえいが?”“土着天敵の好む植物は何?”とかいった意見がだされた。これまでも天敵昆虫を使った取り組みはされているが、コナジラミ類の発生によって化学農薬を使わなければいけない状況が続いており、土着天敵の利用により減農薬栽培の推進に弾みができればと期待は大きい。